

普及課だより

No. 51

2020.1

〒440-0833 豊橋市飯村町高山 11-40

TEL : (0532)63-3529 FAX : (0532)63-7023

Web : <http://www.pref.aichi.jp/>

nourin-higashimikawa/higashimikawa-fukyu/

東三河農林水産事務所農業改良普及課
(東三河農業普及指導センター)

新たな時代を目指して



課長
山崎 一郎

あけましておめでとうございます。日頃は農業改良普及事業に御理解と御協力を賜り、職員一同心から御礼申し上げます。

昨年は、2月からCSF(豚コレラ)の連続発生、5月には豊川用水が34年ぶりに枯渇、7月は平年の6割程度の日照不足、9月に入り相次ぐスーパー台風の上陸、9月、10月と観測史上最も高い月平均気温を記録し、11月には降雪等、自然災害に翻弄させられた一年でした。

こうした中、豊橋市の農村生活アドバイザーの福井直子氏が愛知アグリアウオード、農業経営士の水谷一江氏が全国優良経営体表彰事業で農林水産大臣賞を御受賞され、東三河地域の皆様が、本県農業の推進役を果たしていることを、まさに証明されました。

農業改良普及課では、平成28年から5年間を活動期間とした普及指導基本計画に従い活動を展開しておりますが、この間にICTやAIによるスマート農業の急速な進展、TPP11、EUとのEPA発効など経営環境も大きく変わってまいりました。

令和2年度にはこの5年間の活動を総括し、こうした変化を踏まえて、令和7年を目標年次とする新たな普及指導基本計画を策定します。刻々と変わる新しい時代に対応し成果が上がる普及事業とするため、関係機関、団体の皆様のご意見等をしっかりと伺いながら計画の策定を進めてまいりますので、御協力をお願いいたします。

併せて、これまで以上に地域に密着した普及活動を展開できるよう努力していきますので、よりいっそうの御理解と御協力をお願いいたします。

農業経営士・農村生活アドバイザー・青年農業士の認定者紹介

○農業経営士

<豊橋市>

村田 智則 (露地野菜)
鈴木 義弘 (果樹)
河合 保雄 (施設野菜)
勘解由 雅通 (施設野菜)

<豊川市>

小野 卓也 (水田作)

<蒲郡市>

大森 千彰 (果樹)
竹内 基郎 (施設野菜)

○農村生活アドバイザー

<豊橋市>

近藤 早苗 (果樹)
鈴木 由紀 (露地野菜)

<蒲郡市>

大森 広美 (果樹)

○青年農業士

<豊橋市>

野口 竜司 (酪農)
夏目 直樹 (施設野菜)

<豊川市>

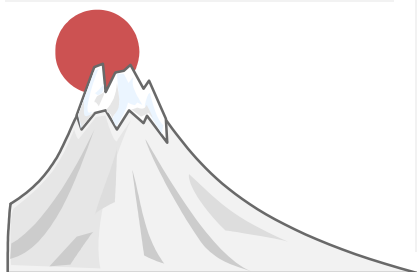
木下 淳 (施設野菜)
酒井 亮 (施設野菜)

<蒲郡市>

小林 憲明 (果樹)



↑三士認定式にて知事と認定者(上から農業経営士、アドバイザー、青年農業士)



管内農業の話題

豊橋市の福井直子氏が愛知農業賞を受賞

12月23日に愛知農業賞（あいちアグリアワード）の表彰式が行われ、豊橋市の（有）みずほ農産の福井直子氏が農業・農村振興部門で表彰されました。愛知農業賞は「山崎賞」、「岩槻賞」の流れを汲む本県の農業・農村振興への功績が顕著な個人・団体を表彰する公益財団法人愛知県農業振興基金の事業です。

受賞理由として、地域に適した転作作物として稲発酵粗飼料（稲WCS）を導入したこと、女性農業者の情報交換組織を設立したこと、農村生活アドバイザーとして消費者向けの農業講座を開設したこと、農業委員として女性農業委員の登用促進に尽力していること、小学校へ農業教育を続けていることなどの功績が高く評価されました。



表彰式にて福井氏(中央)

豊橋市の水谷一江氏が全国優良経営体表彰農林水産大臣賞を受賞

令和元年度全国優良経営体表彰 生産技術革新部門で豊橋市のいちご生産者水谷一江氏が農林水産大臣賞を受賞し、12月5日に第22回全国優良経営体表彰は経営改善計画（認定農業者）に基づく表彰事業で、生産技術革新部門は経営における先進的な生産技術の活用に関する部門です。

受賞の理由として、新しい技術や情報を自分で技術試験し、有用性が確認された資材を産地に情報発信し、地域の生産力向上に寄与した取組や、ベンチをスライドさせ作業通路を確保しつつ栽植密度を増加させ高収量実現と施設の高度利用が可能となる「吊り下げ式の移動式ベンチ」を開発した

優れた技術開発力等が評価されました。



農林水産副大臣(右)と水谷氏(右2人目)

新しい品種・技術の紹介

柔らかさの持続する「愛知糯126」

取り組みが始まる

豊橋市で水稲もち品種「愛知糯126号」を敷島製パン（PASCO）と契約栽培する取組が始まり、本年度は2戸の農家が2.5haで栽培を行いました。

「愛知糯126号」は県農業総合試験場山間農業研究所が育成した品種で、でんぷん構造の改良により糯の柔らかさが面的に持続するため、もちもち感のある米粉パンや、硬くなりにくい和菓子を作ることでできると期待されています。

昨年度の試験栽培で、多収で品質も優れることが確認されたことで、本格的な栽培が始まりました。農業改良普及課では多収な栽培法を検討し、支援を行っています。



愛知糯126号栽培圃場の様子

高温期の定植時に夜冷を実施する

デルフィニウム農家が増加

J A豊橋デルフィニウム部会では、8月定植の作型においてヒートポンプで夜間に冷房する「夜冷」を実施する農家が増加しています。

昨年度、夜冷を行った生産者を対象に普及課が調査した結果、1番花の生育や切り花の品質が向上することが確認され、結果を部会員に報告しました。

今年度、暖房用にヒートポンプを導入している生産者に対し、8月定植での夜冷を推進したところ、新たに7戸が夜冷を開始、全部会員の約半数の12戸が取り組みました。生産者からは「夏の猛暑で効果を心配したが、1番花の草丈が長く、夜冷してよかったです」との感想が聞かれました。



夜冷処理をしたデルフィニウム